

市議団ニュース

木村奉憲 22-8567、杉野 修 58-9010

石田利春 52-7260、渡辺昌代 21-9058

「元の生活
に戻りたい」

被害住民、市の誠意ある態度を求める

被災された市民の皆さんから
切実な声が

南栗橋の液状化被害は、全国でも注目されNHKをはじめマスコミも報道しています。

4月10日には、栗橋文化会館で久喜市長も出席し、被災に対する市の説明会を開催。300人近い方が参加し、市は今回の被害にどう取り組みのか注目されました。集会としては4回目となりますが、被災者の方々全体に告知しての集会は始めてのことでした。

会場では次のような質疑がありました。

問 平成7年、埼玉県と栗橋町が造成した所で絶対安心ですといわれて購入した。区画整理事業造成の際、基準があると思うが、基準をクリアしているか地盤調査を実施し、今回の液状化が起きた要因とともに、造成した責任の所在を明らかにしてほしい。

答 造成当時の法律基準も調べている。当時、地盤の基準があつたかどうかも含め調査をすすめる。「宅地防災マニュアル」など。

地盤調査は、道路や公園、上下水道などの適切な維持と液状化に至った要因を明らかにする目的で、ボーリング(深さ10m)とサウンディング(5m)調査を、液状化した地域の路上や公園などで実施することを基本に進める。

責任の所在については、町が造成し販売↓住宅販売会社↓個人へ販売というルートを考えると、建物を建てた販売会社にも責任があると考ええる。

南栗橋の液状化被害深刻！市も国に支援を要望



現地ではボーリング調査を実施中

問 調査結果がどうであれ、これだけの被害が起きている中、市は市民にどんな支援をしにくれるのかを聞きたい。

答 現段階では、個人の敷地については個人で修復するのが原則と考えている。

市長は千年に一度という大きな災害で、埼玉県の中でも特徴的な被害が出ている。知事とも、早い段階で相談をしていきたいと答えました。

市にも一定の責任がある 独自の支援策を

区画整理事業で造成された地域が、液状化災害が出ていることを考えると一定の責任は免れないと考えられます。

市としても独自の施策を打ち出すべきです。

支援制度の評価基準は

被害現状とは大きな差が

国が個人へ支援する制度として「被災者生活再建支援制度」というのがありますが、現在の被害認定の基準は、液状化で家屋が傾斜し沈下する被害などは、「全壊」の認定がされにくく、「一部損壊」という評価となり、支援金の対象には該当しないことが考えられます。

久喜市議会として国に見直しを要請に

4月27日代表者会議が開かれ、南栗橋地域の液状化による被害救済について、議会としての取り組みが協議されました。

市長も4月28日には埼玉県に要請に行くなど対応をしている中、議会として国に対し、南栗橋で起きた液状化災害がカバーできるような基準に見直しをしてほしい旨を申し入れる。次の議会において同主旨の「意見書」を出すこと。など一致して取り組むことが確認されました

次の説明会は5月15日 14時より

栗橋文化会館にて開かれます

参加者であふれる説明会会場
(栗橋・イリス)

心配される放射能の拡散、真実の公表こそ必要！

久喜市でも放射線量の測定・公表を始めました

久喜市内での放射線量がどれくらいで、市民生活に影響はないのか、など今、多くの市民が心配しています。

久喜市では市庁舎に測定器を設置し、ホームページで数字を公表しています。また、学校での測定にも利用されています。

測定器はトーヨーメディック社の製品で【輸入】価格は37万81千円

市庁舎内に置かれている測定機器



東日本大震災後、いまだに多くの問題があるのは福島第一原発で、その収束をめぐる動きと放射能汚染の広がり、は、ますます深刻です。国が原発のとりあえず収束は6～9ヶ月かかるとの見通しを発表しています。

しかし、専門家からこのスケジュールでとても出来ないとの指摘があります。35年目をむかえたチェルノブイリ(収束に二週間)でも石棺におおわれた4号機の他、1～3号機はいまだ廃炉作業が行われています。

日本原子力研究所大湊研究所所長の藤城俊夫さんは「福島第一原発の事故は原子炉が停止しているのに炉心が溶けている点で、スリーマイルに近いが放射性物質の放出量は多い。しかしチェルノブイリの事故とは放射能物質の放出規模からして別物」だとしています。この放射能物質は、ヨウ素131の他セシウム137(半減期30年)コバルト60(同28年)プルトニウム239(同24000年)がすでに放出されているなど長期間にわたる累積が出てきます。文科省が4月26日発表した累積放射線では浪江町(24キロ)で年間235ミリシーベルト、人工被ばくの年間限度1ミリシーベルトをはるかに超えています。

久喜市では、党市議団がガイガーカウンターの購入申し入れをし、毎日ホームページで発表しています。その数値は0.06～0.07、(毎時マイクロシーベルト)時には0.18まで上昇しています。年間にすれば1.57ミリシーベルトになります。

計り知れない深刻な影響

3月18日全員協議会が開かれました。
主な内容を報告します。

◆栗橋南小学校給食について

北校舎改築中は鷺宮給食センターから栗橋南小学校の給食は、自校方式の給食を実施してほしいという願いがある中、北校舎改築中については、子どもたちに少しでもあたたかな給食を提供することが望ましいとして、久喜市市立鷺宮第二給食センターで調理し配送することが明らかにされました。工事終了後の給食については、審議会で今後検討されます。

◆「久喜市における小・中学校の通学区域の弾力化」は行わないことに決定

ただし、兄弟が通学している場合などは弾力的に対応

◆「議員報酬など特別職報酬見直し」

は行わないことに決定。

◆都市を結ぶ計画路線3路線が決定しました。

- ① 栗橋～鷺宮を結ぶ道路
- ② 鷺宮～久喜を結ぶ道路
- ③ 久喜～菖蒲を結ぶ道路